

# YOKOSHIN NEWS

平成27年 6月 4日  
横浜信用金庫

## 平成26年度決算概況について

横浜信用金庫（理事長 大前 茂）の平成26年度決算が確定いたしましたのでお知らせいたします。

### 1. 本決算のポイント

- 64期連続の黒字決算

### 2. 業容について

預金（譲渡性預金を含む）の期中平均残高は、前年度比3.32%増加し1兆6,433億円、期末残高は同3.41%増加し1兆6,553億円となりました。

貸出金の期中平均残高は、前年度比1.28%増加し8,730億円となり、期末残高は同1.87%増加の8,854億円となりました。

### 3. 損益について

経常収益は、前年度比10億84百万円減少し266億81百万円となりました。貸出金の残高は増加したものの、利回り低下により貸出金利息が減少したことが主な要因です。

経常費用は、前年度比2億30百万円増加し236億79百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年度比13億14百万円減少し30億2百万円となりました。

また、本業の収益力を表す業務純益は、前年度比13億52百万円減少し、29億38百万円となりました。

当期純利益は、前年度比10億35百万円減少し19億1百万円となりました。昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、64期連続の黒字決算となっております。

### 4. 諸比率について

預金貸出金利鞘は、前年度比0.06ポイント低下し0.62%となりました。貸出金利回りは前年度比0.10ポイント低下し1.90%、預金利回りはほぼ横ばいの0.09%となりました。経費を含めた預金原価率は経費率の低下により前年度比0.03ポイント低下し1.27%となりました。

総資金利鞘は、前年度比0.07ポイント低下し0.00%となりました。資

金運用利回りは前年度比0.11ポイント低下し1.28%となり、資金調達原価率は1.27%と同0.03ポイント低下しました。

自己資本比率は、前年度比0.28ポイント低下し11.57%となりましたが、引き続き国内基準（4%）はもとより国際基準（8%）も上回る高い水準を維持しています。

## 5. 不良債権について

不良債権残高は、前年度比50億86百万円減少の461億80百万円となりました。不良債権比率は、金融再生法基準で前年度5.88%から5.19%に低下しました。

なお、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は、95.93%と高い水準を維持しています。

以上



横浜信用金庫